

## キース・ヘリング：NYダウントウン・ルネサンス展関連イベント 6月プライド月間企画「中村キース・ヘリング美術館 クィア・フィルム上映会」開催

日本初公開作品を含むLGBTQ+をテーマにした映画を2日間で6作品上映

中村キース・ヘリング美術館（山梨県・小淵沢）では、6月24日（土）25日（日）の2日間にわたり、6月3日より開催される「キース・ヘリング：NYダウントウン・ルネサンス」展関連企画として、6月のプライド月間の機会に「中村キース・ヘリング美術館 クィア・フィルム上映会」を開催します。



「クィア」という言葉は、元々「風変わりな」「奇妙な」という意味として時にセクシュアル・マイノリティの人々に対する差別的な言葉として使われてきました。現代では「クィア」という単語はジェンダーやセクシュアリティにとらわれない多様な存在を包み込む大きな傘のような言葉として使われています。クィア・フィルムとはそうしたクィアというアイデンティティやコミュニティーを題材とし、同性愛や異性愛、両性愛などの言葉には当てはめることができないセクシュアリティのあり方を、さまざまな視点や手法により表現する映像作品です。

1969年6月28日にニューヨークで「ストーンウォールの反乱」が起きた月として、6月は世界的にLGBTQ+の権利の啓発や認知向上を目指す「プライド月間（Pride Month）」として各地でイベントが開催されています。

ストーンウォールから約10年、「LGBTQ+」という言葉もなく、性的少数者への差別や偏見、抑圧が今よりも強かった80年代に、キース・ヘリングは自身がゲイ男性であることをオープンにしてアーティスト

ト活動を行い、LGBTQ+コミュニティの可視化やHIV・エイズの正しい理解の促進などを目的とした啓発活動を行いました。

当館は、キース・ヘリングの遺志を継ぎ、毎年プライド月間である6月に様々な活動を行なっています。今年は「キース・ヘリング：NYダウタウン・ルネサンス」展の2章で「ホモエロティシズムとHIV・エイズ」をテーマとすることから、映画上映シリーズ「ノーマルスクリーン」協力のもと、クィア・フィルム表現を通して「クィアネス（クィアであること）」について考える機会となる、初の2日間連続映画上映会を開催します。

#### • 中村キース・ヘリング美術館 クィア・フィルム上映会のみどころ

80年代の若者の恋愛像、近未来社会劇、音楽、ダンス…中村キース・ヘリング美術館ならではの視点でセレクトした日本初公開を含む6作品を2日間終日上映



虎の子 三頭 たそがれない 監督：グスタボ・ヴィナグリ | 2022年 | ブラジル

本上映会では、多様な「クィアネス（クィアであること）」を紹介するため、当館ならではの視点で4カ国、6本の映画を選定しました。キース・ヘリングと関係の深いダンサー・振り付け家のビル・T・ジョーンズのダンスで紡がれる作品『無題』や日本の馴染み深い風景と柔らかな歌声、音楽とともに描かれる『ビバリー・グレン=コーブランド (In the Making)』、政治への鋭い批判とフィクションを織り交ぜた日本初公開作品『虎の子 三頭 たそがれない』など、中村キース・ヘリング美術館によるプログラムだからこそご覧いただけるラインナップです。



『ゲニウス・ロキ』 監督：エイドリアン・ミリガウ | 2019年 | フランス



『アナザー・ヘイライド』 監督：マット・ウルフ | 2021 | アメリカ

本上映会では少しでも多くの方にクィア・フィルムの多様な表現にふれていただけるよう、ナイトミュ

ージアムの時間に上映される長編作品を含む、6本の映画すべてをご覧いただける2デイパスをワンコイン（500円）で販売します。特に、メイン会場である特設会場では、アニメーション、ドキュメンタリーなど4本の短編作品合計約70分を終日連続上映。好きな時間から鑑賞することができますので、クィア・フィルムやプライド月間に興味があるけれど、足を運べていなかったという方でも、旅の予定に合わせて気軽にお立ち寄りいただけます。

• 上映作品ラインナップ・タイムテーブル



中村キース・ヘリング美術館  
クィア・フィルム上映会



## 6/24(SAT) TIMETABLE

DAY  
1

6/24 (SAT)

特設会場にて上映

9:00-10:10	短編作品 4 本	<b>短編作品ラインナップ（約70分）</b> ・アナザーヘイライド   18分 ・無題（ビル・T・ジョーンズ）  10分 ・ビバリー・グレン＝コーブランド（In the Making）  22分 ・ゲニウス・ロキ   16分
10:20-11:30	短編作品 4 本	
11:40-12:50	短編作品 4 本	
13:00-14:10	短編作品 4 本	
14:20-15:30	短編作品 4 本	
15:40-16:50	短編作品 4 本	希望の展示室にて上映
17:00-18:00	ゲストトーク   60分	
18:15-19:45	長編作品 <b>虎の子 三頭 たそがれない   84分</b>	



中村キース・ヘリング美術館  
クィア・フィルム上映会



## 6/25(SUN) TIMETABLE

DAY  
2


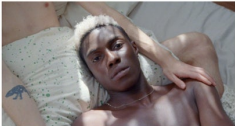
6/25 (SUN)

特設会場にて上映

9:00-10:10	短編作品 4 本	<b>短編作品ラインナップ（約70分）</b> ・アナザーヘイライド   18分 ・無題（ビル・T・ジョーンズ）  10分 ・ビバリー・グレン＝コーブランド（In the Making）  22分 ・ゲニウス・ロキ（エイドリアン・ミリガウ）  16分
10:20-11:30	短編作品 4 本	
11:40-12:50	短編作品 4 本	
13:00-14:10	短編作品 4 本	
14:20-15:30	短編作品 4 本	
15:30-17:00	長編作品 <b>So Pretty   83分</b>	※性描写や性的な話題が含まれる作品です。

6月24日17:00にはトークイベントも開催予定。トークゲスト詳細は6月中旬に発表いたします。

短編作品		特設会場にて4本を連続上映	
<b>アナザー ヘイライド</b> 	監督：マット・ウルフ   2021年   アメリカ	18分	1980年代初期、エイズが蔓延していくなかセルフヘルプ（自助/互助/自立）グループを率いるルイズ・L・ヘイガ、「ヘイライド」という集いの場を立ち上げた。死を意識し差別にも苦しんでいた何百ものゲイ男性たちを惹きつけ、ルイズは「自分を愛すること（self-love）でエイズを乗り越えることができる」と約束した。ニューヨーク・タイムズのウェブサイトにて配信されたドキュメンタリー。ありのままの自分を愛し、互いを認め合うというメッセージがこもっている、プライド月間にふさわしい作品。
<b>無題（ビル・T・ジョーンズ）</b> 	監督：ジョン・サンボーン、メアリ・ペリロ   1989年   アメリカ	10分	ビル・T・ジョーンズがダンサー兼振り付け家のアーニー・ゼーンの人生と作品を語る。ビル・T・ジョーンズはキース・ヘリングがボディペインティングや公演のためのポスターや舞台セットを担当したこともあるアメリカの著名なダンサー、振付家。1988年にエイズにより亡くなったゼーンの長年のパートナーだったジョーンズが彼の記憶を巧みに流れるような踊りや写真で呼び起こす。
<b>ビバリー・グレン＝コーブランド（In the Making）</b> 	監督：シヨーン・オニール   2019年   カナダ	日本初公開	22分
			50年の時を経て世界的に再注目されることとなった音楽家ビバリー・グレン＝コーブランド。そのきっかけは彼が1986年に発表したアルバムのカセットを新潟のレコード屋が発見し販売したことだった。今作では彼の70年以上の人生が新潟のSHE Ye, Ye Recordsを訪ねる旅を通し描かれる。カナダの公共テレビで放送されたドキュメンタリーシリーズ「In the Making」シーズン2のエピソードの1つ。日本初公開。（字幕協力：カナダ大使館）
<b>ゲニウス・ロキ</b> 	監督：エイドリアン・ミリガウ   2019年   フランス	16分	孤独な若者レーヌはある夜、都会の大混雑のなかにも動く何かを見出す。生き生きとした案内人のような何かを。水彩画や版画など、20世紀美術に精通した監督により絵画の技法を駆使した美しい映像で描かれる物語。アニメーションならではの心情の表現やクワイネスの表現が注目される。アヌシー国際アニメーション映画祭や新千歳空港国際アニメーション映画祭で受賞したアニメーション。（字幕協力：新千歳空港国際アニメーション映画祭）

長編作品		希望の展示室にて 6月24日（土）18:15 - 19:45	
<b>虎の子 三頭 たそがれない</b> 	監督：マット・ウルフ   2021年   アメリカ	日本初公開	84分
			近未来のサンパウロ。脳に影響を及ぼすウイルスが街にひろがり人々の記憶力は低下し、国家は独裁政権や植民地主義の歴史を忘れていた。そして資本主義が充満した街を若いクワイの3人がさまよひ、HIVと生きる体験を共有したりインフルエンサーに出会ったり頼りない大人たちと時間を過ごしながら、彼らはどこかへ導かれる。極右ポルノナー口政権下とコロナ禍に、ブラジル注目の若手映画作家が皮肉とユーモアたっぷりに今日のブラジル社会を描き、2022年に世界の映画祭で高く評価された作品。日本初公開。
長編作品		特設会場にて 6月25日（日）15:30 - 17:45	
<b>So Pretty</b> 	監督：ジェシカ・ダン・ロヴィネリ   2019年   アメリカ	83分	80年代のベルリンに住む4人の恋人たちのコミュニズムをテーマにした小説をもとに、NYで共に暮らし生きたびようとする若者たちのクワイ・ポリアモリーコミュニティの姿を捉えた作品。ダンスミュージックの身体感覚が織り込まれた映画であると監督が語るように、若者たちがクラブに繰り出すシーンは、身体に渦巻く感情を暗闇の中で時々光に照らされる姿で表現しているようでもある。 ※性描写や性的な話題が含まれる作品です。

	チケット名	金額	販売場所
当日券	クワイ・フィルム上映会2デイパス	500円	美術館窓口でのみ販売
前売券	展覧会鑑賞+クワイ・フィルム上映会2デイパス	1800円	中村キース・ヘリング美術館 公式オンラインショップにて販売

※上映会のみ前売券はございません

前売りチケット販売期間：5月27日（土）から6月23日（金）24:00まで

## • イベント概要

### <企画協力>

本上映会は、映像上映シリーズ「ノーマルスクリーン」協力のもと開催されます。

# normal screen

2015年夏より主に東京を拠点に続く映像上映シリーズ。時代や地域を問わず性的マイノリティの経験を描いた作品や作家の活動を中心に紹介し、過去には音楽家アーサー・ラッセルのドキュメンタリー日本初上映やベトナムやタイの実験映像、韓国の作品、AIDSアクティビズムに関する作品などを劇場やコミュニティ／団体などと協働し上映している。

<http://normalscreen.org/>

イベント名	キース・ヘリング：NYダウタウン・ルネサンス展関連イベント 6月プライド月間企画 中村キース・ヘリング美術館 クィア・フィルム上映会
会期	2023年6月24日（土） - 2023年6月25日（日）
開催時間	day1：9:00 - 19:45（チケット最終販売：17:00） day2：9:00 - 17:00（チケット最終販売：16:00）
公式サイト	<a href="https://www.2023exhibitions.nakamura-haring.com">https://www.2023exhibitions.nakamura-haring.com</a>
主催	中村キース・ヘリング美術館
企画協力	ノーマルスクリーン
字幕協力	カナダ大使館、新千歳空港国際アニメーション映画祭 <a href="https://airport-anifes.jp/">https://airport-anifes.jp/</a>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000044.000022359.html>

中村キース・ヘリング美術館のプレスリリース一覧

[https://prtimes.jp/main/html/searchrhp/company\\_id/22359](https://prtimes.jp/main/html/searchrhp/company_id/22359)

---

## プレスツアーのご案内

本展開催前日（6月2日[金]）に、プレスツアーを開催します。新宿駅よりバスで小淵沢までご案内し、「キース・ヘリング：NYダウントウン・ルネサンス」と、同時開催の、世界的な衣裳デザイナーおよびスタイリスト、パトリシア・フィールドのアートコレクションを紹介する展覧会「ハウス・オブ・フィールド」を、メディアの皆様にご紹介いたします。担当キュレーターによる展覧会説明のほか、関連イベントについてもイベント担当よりご紹介いたします。

ぜひ、ご参加賜りますよう、ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。

### [日程（予定）]

09:00-12:00 新宿駅集合、バス移動（移動中にご昼食）

12:00-14:30 内覧会（2つの展覧会を担当キュレーターがご案内します。）

14:30-15:45 パトリシア・フィールドよりビデオメッセージ上映

#### 関連イベントご案内

16:00 内覧会終了（バスで新宿駅までお送りします。）

18:00 新宿駅到着

※詳細なスケジュールは、改めてご案内します。

※ご参加を希望される方は、<https://forms.gle/X5r4WrvnMedXpihG8> より必要事項をご記入いただくか、本出欠確認票を [pr\\_nkhc@keith.jp](mailto:pr_nkhc@keith.jp) までお送りください。

※お手数ですが【5月19日(金)12:00】までにご返信をいただけますと幸いです。

### 【本件に関する報道関係お問合せ先】

担当：田中、木虎、(島田)

連絡先：[pr\\_nkhc@keith.jp](mailto:pr_nkhc@keith.jp)